

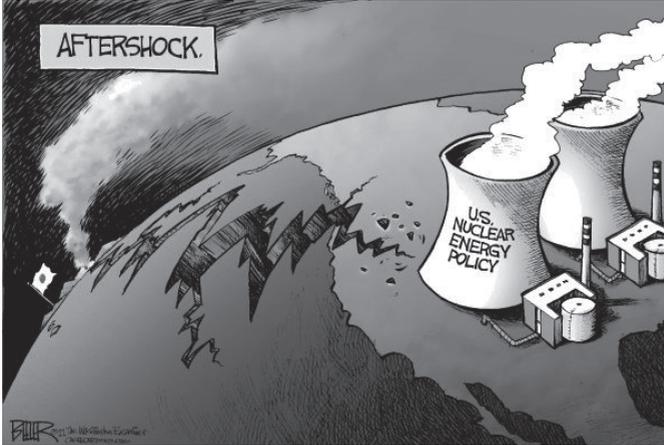
Cartoon says it all.

マンガをみれば世界がわかる

Japan Aftershocks by NATE BELLER,
THE WASHINGTON EXAMINER,
WASHINGTON, D. C., March 14, 2011

© 2011 Nate Beeler

毎日新聞専門編集委員
西川恵



【余震】

二五年前、私がパリ特派員としてフランスに赴任した時、欧州はソ連（当時）のチェルノブイリ原発事故の直後だった。「牛乳を飲むな」「雨には濡れないように」。テレビのニュースが毎日のように流していた。

ただ、人々には「社会主義体制の硬直的なシステムが生んだ事故」「ソ連ならあり得ること」との思いが心のどこかにあった。社会主義の破綻が誰の目にも明らかになりつつある時期でもあった。

その意味で、福島第一原発が世界に与えた心理的衝撃はチェルノブイリ原発事故より大きい。安心、安全、信頼の代名詞でもあった日本で、よもやの事故だからだ。

「日本で起きたということは、自分の国でも起きる」と、世界各国で原発政策の見直し、安全の再確認、反対運動が起きている。推進派のオバマ米大統領は「日本の危機から教訓を得て、安全を確かにする」と不安の鎮静化に必死だ。日本発の心理的地震はしばらく収まりそうもない。

【リビア危機】

混迷するリビア情勢。そもその震源は、西と東で国境を接するチュニジアとエジプトの民主化運動だった。

東西両隣りの国が民主化されると、自らの足元も危うくなる。最高指導者のカダフィ大佐は「ウイキリークス（機密情報を公開するウェブサイト）が仕掛けた陰謀」と、両国の民主化運動を非難した。

しかし一月にチュニジアのベン・アリ大統領、二月にはエジプトのムバラク大統領と、大佐と親しかった指導者たちが相次いで国外逃亡や辞任に追い込まれた。

両国の民主化のサンドイッチになって、大佐は苦境に陥った。四二年にわたる独裁に倦んだ人々は銃をとって反体制派を結成。フランスと英国が主導する北大西洋条約機構（NATO）軍も空爆などでカダフィ政権への締め付けを強化している。

大佐や親族がスイスに保有する五五〇億円といわれる金融資産も凍結された。この漫画が読者の目に触れるころ、リビア情勢はどうなっているだろう。



Crisis in Libya by SERGEI ELKIN
Rian, Moscow, Russia, February 21, 2011
© 2011 Sergei Elkin